

サツマイモ「兼六」の一斉採苗法の確立

1 背景・目的

最近の干し芋ブーム等を契機に、粘質系で甘みの強いサツマイモ「兼六」を複合経営に取り入れる生産者が出始めている。一方で、サツマイモはハサミで一本ずつ苗を刈り取る等、育苗期の作業に最も労力が必要であるため、他品目と作業競合し、生産拡大を阻む要因となっている。

加工・業務用向けの「兼六」では、慣行よりも短い15cm~25cmの苗長でも同等の収量を得られることから、一斉採苗により採苗作業を効率化できる栽培技術を確認する。

2 技術のポイント

- (1) 一斉採苗では苗の1/4以上が茎長25cm程度となったタイミングに電動バリカン等で全刈りを行い、15cm以上の苗を用いる(図1)。
- (2) 一斉採苗では、地際部を5cm残して刈り取ることで、1ヶ月間隔で計2回採苗を行うと、慣行採苗の10~15日間隔で計5回採苗を行うのと同じ苗床面積で同程度の苗数を確保できる(図2)。
- (3) 10a分の採苗(3,200本)にかかる労働時間は、一斉採苗では約3時間程度となり、慣行採苗に比べて約7割の削減となる(図3)。

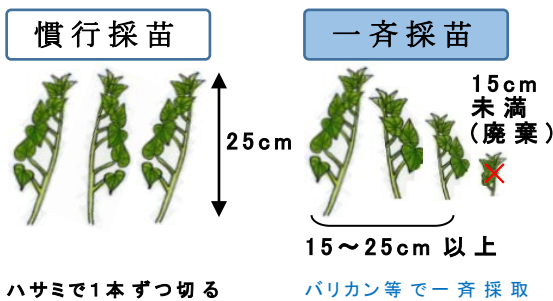


図1 一斉採苗のイメージ

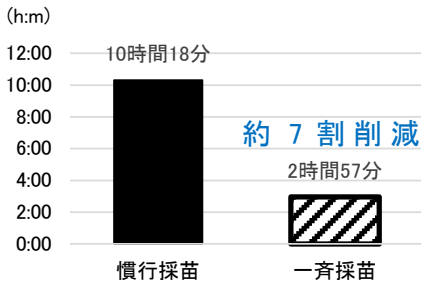


図3 10a分の苗(3,200本)の採苗に要する時間

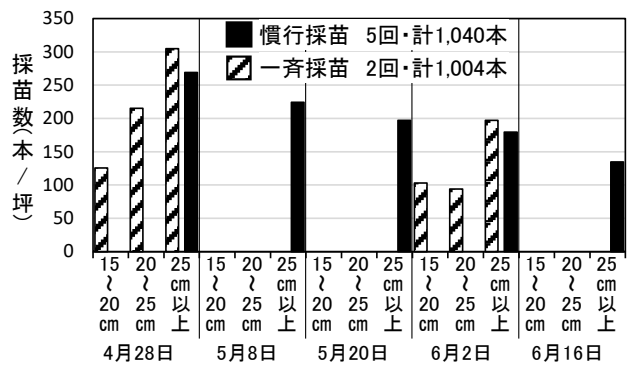


図2 採苗方法の違いが採苗本数に及ぼす影響
※種芋は2020年3月9日にMサイズ(210~330g)の塊根を温床に16×23cm間隔で伏せ込んだ。

3 成果の活用と留意点

1回目の一斉採苗を行った後は、高温多湿気味の管理や液肥の葉面散布を行い、次の採苗に向けて生育を促進させる。

問合せ先：砂丘地農業研究センター TEL 076-283-0073
担当者：諸角大地・増田大祐